

令和3年度 「みそのもくもく」学生の振り返り

(学びのねらいとしている保護者との関わりについて抜粋しました)

○限られた時間の中で行うには環境設定がいかに大切かを感じた。臨機応変に玩具を入れ替えたり、追加したり場所を広げたり、保護者への椅子を配置しなおすなど、さりげない援助が参加している人達を笑顔にするのだと思った。

○ピアノを担当して、途中で止まってしまったが、子どもたちは誰も笑わず、待っていてくれた。子どもたちや保護者から応援してもらっている感じが伝わってきた。ピアノは苦手だが頑張ろうと思った。

○話しかけなければ……と思っていた。先生の関わり方を見ていると、子どものことを理解したうえで具体的な話題で会話していると感じた。私も、子どもと一緒に遊びながら子どもをみて、家庭での様子を聞いたり、いろいろな視点から言葉を出せるようになりたい。

○遊んでいる時間内だけではなく、帰りのわずかな時間も目を合わせながら、見送った。笑顔で声をかけると笑顔で返してくださる。勇気があることであったが、こちらが話しかけやすい雰囲気であることを大切にしなければならないと感じた。

○保護者との関わりは本当に難しく、毎回落ち込んでいた。しかし、様々な経験を積み重ねたことにより、「寄り添う」ということは目の前の子どもを丁寧によく見ることだということ学んだ。この場だけの学びではなく、多様な場面での積み重ねが必要だと感じた。

○保護者は子育てについて相談をしたい方と子どもの遊びの様子をじっくり見たい方とその日の目的がそれぞれ違うことがやっと分かってきた。それを理解したうえで、適度な距離感や会話の時間を考えられるようになった。

○回を重ねるごとに抱っこの仕方、乳児と同じ視点で遊ぶことなどの基本的なことを繰り返して学ぶことができた。その遊びを通して、子どもと心が通じたような場面もあったり、保護者と一緒に遊びを楽しんだことで、子どもをよく見て言葉をかけることができた。